Y09b 地域の文化資源を活用したサイエンスコミュニケーション – 「スペースカフェ☆お茶の水」の取り組み

○阪本成一, 大川拓也, 安田大介 (宇宙航空研究開発機構), 左近樹, 臼井文彦 (東京大学), 京田綾子, 高木俊暢 (日本宇宙フォーラム), ほか「スペースカフェ☆お茶の水」実行委員会

宇宙航空研究開発機構の東京事務所や日本宇宙フォーラム、東京大学の本郷キャンパスなどが位置するお茶の水エリアは、宇宙の研究・開発や教育・普及における国内有数の拠点であるだけでなく、多くの大学や専門学校、予備校が集まる国内最大の学生街や、国内最大の書店街・楽器店街・スポーツ用品店街、さらには神田神社、湯島聖堂、ニコライ堂等をはじめとする宗教施設、老舗名店街などの名所を多く抱え、知的好奇心にあふれる街の特性を活かして広範な文化ゾーンを形成している。

このような恵まれた立地を活用して宇宙の研究・開発の成果やプロセスなどへの関心を喚起するため、上述の関連機関をはじめ地元の商店会などからなる実行委員会を組織し、イベントを開催している。この「スペースカフェ☆お茶の水」では、いわゆるサイエンスカフェ形式にはこだわっていない。開催の方針はたいへんシンプルで、新しい聴衆を開拓するために、開催場所を固定しないこと、イベントのスタイルを固定しないこと、可能な限り天体観望会を実施するということであり、実行委員会で議論しながら進めている。

2013 年 12 月に ECOM 駿河台で初回を開催して以来、ほぼ 2 か月に 1 度のペースで回を重ねている。約 1 年を迎えるにあたり、これまでの取り組みを紹介するとともに、得られた知見について報告する。